

平成22年度第4回富士見市生涯学習推進市民懇談会会議録

日時 平成22年9月24日(水) 10:00~12:00
場所 中央図書館 集会室
出席者 ○市民懇談会委員

委員長	副委員長				
小塚	荻島	岩田	岡本	桐生	佐藤
○	○	○	○	○	○
清水	田中	鳥澤	森本	横田	我彦
○	○	○	○	○	○

○事務局

【協働推進課】山岸課長、吉岡副課長、吉野

【生涯学習課】永瀬課長、佐藤、高見

1. 開会あいさつ 小塚委員長

2. 議題 議事進行 小塚委員長

(1) 報告事項

①起草委員会について

起草委員会の開催状況等について、事務局より報告を行った。

②その他

特になし

(2) 協議事項

次期生涯学習推進基本計画の提言について

「生涯学習推進基本計画提言書(案)」について、森本委員より前回協議からの修正点を中心に説明を行った。

委員長) 項目ごとに協議を進めることとしたい。まず「はじめに」の部分について意見があればお願いしたい。

特に意見がないようであれば「視点」についてはいかがか。

委員) 視点の表題に「第2次計画の」と入れているが、全ての項目に共通することであり、他では使用していないため、削除としたい。

委員) 「人材バンク」について、正式な名称としては「市民人材バンク」としているのので、変更いただきたい。

委員長) 「コミュニティ大学」も正式には「富士見市コミュニティ大学」

であり、市民大学（正式名称：ふじみ市民大学）等も含めて正式名称の使用をお願いしたい。

他に意見がなければ「理念」についてはいかがか。

委員）最初の囲み枠の中の最後に「など」を入れているが削除したい。

委員長）他に意見がなければ「目標」についてはいかがか。

特になければ「計画の内容」について意見をお願いしたい。

委員）1－（2）、2－（4）に関わる部分であるが、子どもの学習について、文部科学省の方針でも外国人の子どもに対する学習の充実が加わった。将来的な視点として必要であり、安心安全の面でもいえることである。また、1－（3）の施策の中でシルバー人材センターを挙げているが、人材バンクもまちづくりに貢献しているので並列に追加していただきたい。同様に1－（5）にも追加をお願いしたい。

委員）各施策の項目に事業を追加していくとより充実したものになるので、該当があれば挙げていただきたい。

委員長）事例の中には、人材バンク、市民大学、コミュニティ大学等は共通して挙げられるので、一緒に掲げるようお願いしたい。

委員）2－（2）で市民学芸員の充実とあるが、何を具体的に充実するのか。

委員）計画を立てた後に、その計画を確立していくためにどうしたらよいかは市民と行政がお互いに協力して考えていくものと理解している。計画にないと進まなくなってしまうので、まず項目を載せることが必要と考える。

委員）提言の中には具体的なものと抽象的なものがあり、釣り合いが取れていない気もするが、具体的な事業を提案するというよりも市民の中にこういう意識があると明示するぐらいの位置付けでよいと考える。具体的な事業をどうするかは、計画策定後に現場で協議してもらおう方向で考えているということを文章に盛り込みたい。

委員）計画には夢を語るような総体的な問題としてとらえる部分と目に見えるものとして5年・10年かけて実現していくものがある。具体化させるものも必要であり、例えば、施設に常設の市民参加の場をつくることは、インフラ整備の基本となるものなので必要と考えるが、なかなか具体化しないのは寂しい。第1次計画において出前講座や人材バンクが具体化したことは高く評価できるので、そういったものも計画に盛り込み実現を目指していくべきである。

- 委員長) 全体的に具体策というよりは、問題を提起する方向で提言書の作成を進めているので、具体化は次の段階で検討をお願いしたいと考える。
- 委員) 2－(4)の施策の中で、男女共同参画事業と性・ジェンダー等を分けているが、内容が重なっているのでは。
- 委員) 施策を別立てにすることで、男女共同参画をより強調している。また、性は子どもに対するものもあるし、ジェンダーはセクシャルマイノリティの部分に関わるものもあり、男女共同参画で括れない部分もあると考える。
- 委員長) 起草委員会の中では、2－(5)の中にある「新住民と旧住民」という表現や分け方が課題として残ったが、いかがか。
- 委員) どこで区切るのか気になる場所であり、市内に居住し40～50年経過しても新住民となるのか。()書きの部分は削除しても意味が通じるのではないか。
- 委員) ()の部分は世代を超えたという意味で入れているのか。
- 委員) ふじみ野地区等の新興住宅と旧来の住民との交流がなかなかはかれないので、両者をつなぐ手段として農業体験を活用できるのではないかという趣旨で入れている。
- 委員) 新旧だけでなくもっと多重的な意味があり、場所に限らずマンション等の形態なども含まれているのであれば、一般的には「住民交流」という表現を用いているのではないか。
- 委員) ()書きを削除しても違和感はないし、他の事業でも推進する理由までは付けていないので削除してもよいと考える。
- 委員) 1－(4)の中に内容を盛り込んでいくこととし、()書きは削除することとしたい。両者のギャップのようなものをどうつなげていくかは市の課題なので必要な内容であると考え。
- 委員長) 団地等に限らず、同じ居住区・戸建でも従来から住んでいる田畑・マンションを持つ人と持たない人などがいる。それらの混在は当市の1つの特徴なので課題を埋めていくように整理し載せるようにしたい。
- 委員) 3－(2)の学習施設を整備するの中で、公民館と並列し、交流センター・コミュニティセンターも挙げたほうがよい。行政の縦割りを超えていくような意味につなげるためにも必要である。
- 委員) 同項目の中にある「博物館」は市内にないので「資料館」に変更したほうがよい。
- 委員) 集会所も同項目の中に入れたほうがよい。高齢者学級やサロン等

も行われており、以前に比べて市民が幅広く利用している。

委員) 施策の中に「集会所の開放」とあるが、既に市民に開放されているので「集会所の活性化をはかる」というような表現に変更したほうがよい。

委員) 3-(4)の「活動報告を活発にする」は具体性に欠ける。「活発にする環境を整備する」というように具体的に示す方向に変更したほうがよいでは。

委員) 色々な団体がどんな活動をしているのか常に情報を出してもらい共有化することが活性化につながるという議論があったので、施策として載せている。

委員) 生涯学習には、コミュニティ関係の部分と自己表現の部分である趣味的なものがある。自分だけという考えで、例えば、お金持ちが名画を地下に保有し一人で鑑賞しようとするようなものではなく、自分のコレクションを展示し、そこから仲間づくりにまで発展するというような発表の場を設けるという意味であると考え。この様な表現が含まれていると理解しやすくなる。

委員) 「学習成果を還元するための機会をつくる」というような表現にしたい。

委員) 具体例のとおり、まつりやイベントに参加することが、そのような機会になると理解できる。

委員) 参加するだけでなく、自ら機会をつくることも考えられる。例えば、図書館の入口を個人所有のコレクションの発表の場として展覧会等が行えれば、そこから市民どうしのつながりも生まれるので、そのような場をつくるのが活性化につながると思う。

委員長) 昔遊び等も注目されており、発展すれば伝統文化の継承にもなる。また、おもちゃを修理するグループもあり、そのような取り組みは世代間交流にもつながる。

委員) それらの取り組みは世代間の交流にもなるし、「地域の学校」を進める材料などにもなる。複数の項目に関わる内容なので、いずれかの項目に加えていきたいと考える。

事務局) 3-(4)の施策の中で「適正な評価システム」を掲げているが、イメージできるものがあれば教えていただきたい。

委員) 例としては、生涯学習パスポートとして、終了証のような記録を残すことが挙げられる。生涯学習はどういう活動をしているのか一般的には見えにくいので、こういうことを行ってきた、こういうことができるよと分かるような仕組みがあるとよい。また、それ

をきっかけにしてコミュニケーションが始まることもある。

委員) イメージとして理解できる。例えば、市民が趣味などの講演をした場合に記録が何も残らない。その時に感謝状のようなものがあれば記録が残る。また、講座等を終了した人に対しても修了証書等があれば生涯学習の証がそこに残ることになり、参加者の喜びにつながると思う。

委員) もう少しやわらかく分かりやすい表現にしたい。

委員長) 他に意見がないようであれば「おわりに」についてはいかがか。

委員) 第3段落の2行目「昔から」の後に「の」を追加したい。

委員) 個々の表現の場としてだけでは、これからの生涯学習は成り立たないという大学の先生の話聞いたことがあり、提言書の中に基本的な視点として「生活づくり」、「まちづくり」を謳っていることは大きな成果であると考えます。

委員長) 最後に全体的な構成やその他の事項で意見があればお願いしたい。⇒特になし

議論を進める中で理念も新しい文章に生まれ変わるなど、まじめに議論を行った結果と考える。各委員のご協力に感謝したい。

それでは、本日の協議した内容を加えて最終的な提言書としたいが、よろしいか。⇒了承

(3) その他

・提言書の提出について

事務局) 市長への提言書の提出を平成22年10月6日(水)午後2時から市長公室で行いたいと考えている。正式な会議ではないため任意でご参加いただける方をお願いしたい。時間は30分程度、内容としては、提言書の提出及び懇談を予定。

・提言書について

事務局) 本日の協議により、提言書の一部変更等が生じたため、後日、改めて確定した提言書を各委員に送付することとしたい。

3. 閉会あいさつ 萩島副委員長

○資料 ・生涯学習推進基本計画提言書(案)